

## メタアナリシスによる Prioritized outcomes を用いたエビデンスの再評価

臨床試験では、通常1つの主要評価項目に基づいて主な意思決定がなされる。その際、副次評価項目や安全性評価項目に関しては別途解析が行われる。別々に得られた複数の結果を踏まえて、リスクとベネフィットのバランスが評価されるが、その手順や評価方法は必ずしも明示的とは言えない。このアプローチに代わる評価方法として、リスクベネフィット評価に関連する複数の評価項目について、臨床的重要性などを踏まえた順位付け (prioritized outcomes) を行い、順位に沿った比較を逐次的に行うことで複数の評価項目をまとめて評価する解析方法が提案されている (Finkelstein DM and Schoenfeld DA. *Statist Med* 1999; Buyse M. *Statist Med* 2010; Pocock SJ, et al. *Eur Heart J* 2012)。

これらのアプローチは、エビデンスを利用する側にとっても、自身の選好を反映させた順位付けを適用することを可能とする。もし自身の治療に関して、関連試験のデータを個票レベルで2次利用できることとすると、まさに個別化されたエビデンスに基づいた治療選択につなげることができる。また、個票データを基にしたメタアナリシスを進めるにあたって、このような利用の可能性を提示することは有用であろう。

Prioritized outcome を用いた評価について、メタアナリシスの枠組みでの議論はこれまであまりなされていない。本抄読会では、Prioritized outcomes を用いた解析結果のメタアナリシス手法について、事例をもとにした検討を行う。

Buyse M. Generalized pairwise comparisons of prioritized outcomes in the two-sample problem. *Statist Med* 2000;29:3245-57.

Finkelstein DM, Schoenfeld DA. Combining mortality and longitudinal measures in clinical trials. *Statist Med* 1999;18:1341-57.

Pocock SJ, Ariti CA, Collier TJ, Wang D. The win ratio: a new approach to the analysis of composite endpoints in clinical trials based on clinical priorities. *Eur Heart J* 2012; 33:176-82.